

臨床透析 ● 総目次

第 37 卷

Vol.37 No.1~No.13

(2021 年 1 月号~12 月号)

● 特 集

《特集一覧》

- | | | | |
|------|--------------------------------|-------|------------------------|
| 1 月号 | 腎性貧血治療のこれまでと、その新しい展開 | 7 月号 | CKD 診療におけるビタミンと微量元素 |
| 2 月号 | 感染症と医療安全 | 8 月号 | 透析医療における災害対策 |
| 3 月号 | 透析看護分野の看護師の認定・研修制度と社会から求められるもの | 8 増刊号 | 透析患者の消化管疾患 A to Z |
| 4 月号 | 透析の開始・継続・見合わせ | 9 月号 | CKD・透析患者の最近の知見による体液管理 |
| 5 月号 | ダイアライザ・ダイアフィルタの今後を考える | 10 月号 | シームレスな CKD 対策に向けての看護実践 |
| 6 月号 | 看過してはならない不整脈 | 11 月号 | CKD・透析患者の栄養指導方法と実践 |
| | | 12 月号 | 透析医療システムの将来と医師の働き方改革 |

■ 1 月号 (vol.37 no.1) 腎性貧血治療のこれまでと、その新しい展開

腎性貧血治療において赤血球増殖を目的に使用される薬剤

- | | | |
|--|-------------------------------------|-------|
| | 鈴木 正司 | 4 |
| 1. 腎性貧血治療の歴史 | 鈴木 正司 | 7~12 |
| 2. 腎性貧血の発症機序 | 宮崎真理子・宮内健一郎
佐藤 浩司・鈴木 教郎 | 13~18 |
| 3. 低酸素と低酸素誘導因子 (HIF) によるエリスロポエチンの産生調節と腎性貧血 | 安倍 寛子・田中 哲洋 | 19~24 |
| 4. これまでの腎性貧血治療 | | |
| (1) ESA による腎性貧血治療 | 鶴屋 和彦 | 25~32 |
| (2) 腎性貧血における鉄の課題 | 濱野 高行 | 33~40 |
| (3) 腎性貧血治療の課題 | | |
| a. 保存期 CKD での課題 | 平林 千尋・丸山 之雄
山本 裕康 | 41~46 |
| b. 透析期での課題 | 朝比奈悠太・土井 洋平
坂口 悠介・貝森 淳哉
猪阪 善隆 | 47~52 |

- | | | |
|--------------------------|---------------------|-------|
| (4) ESA による貧血以外への治療効果 | 中野 敏昭・平方 秀樹 | 53~59 |
| (5) 栄養障害から見た CKD 患者の貧血 | 小船 雅義・堀口 拓人
井山 諭 | 60~64 |
| 5. HIF 分解酵素阻害薬による腎性貧血治療 | 秋澤 忠男・渡辺 誠 | 65~70 |
| 6. HIF 分解酵素阻害薬の腎保護効果と懸念 | 深水 圭 | 71~76 |
| 7. HIF 分解酵素阻害薬と他薬剤との相互作用 | 古久保 拓 | 77~84 |
| [コラム] | | |
| ・腎移植における HIF 分解酵素阻害薬 | 西 慎一 | 85~87 |

■ 2 月号 (vol.37 no.2) 感染症と医療安全

- | | | |
|----------------------|-------------|---------|
| 患者への感染対策の基本 | | 108 |
| 1. 透析患者に対する基本的な感染対策 | 矢野 邦夫 | 111~116 |
| 2. 感染防止に必要な透析看護 | 横井さおり・佐藤 久光 | 117~122 |
| 3. 感染防止に必要な透析装置の環境整備 | | |

4. 感染症別の対策	山下 芳久	123～129	阿部 利恵・三村 洋美	249～254
(1) インフルエンザ	安藤 亮一	131～139	(4) 多職種を対象とした認定制度の現状と展望	
(2) 肝炎ウイルス	洞 和彦	140～145	水内 恵子	255～260
(3) 麻疹および水痘ウイルス	石垣さやか・加藤 明彦	146～152	(5) 診療看護師教育と透析看護	
(4) ヒト免疫不全ウイルス (HIV)	日ノ下文彦	153～159	山西 文子	261～268
(5) ノロウイルス	大西 健児	160～165	5. 実践報告	
(6) 新型コロナウイルス感染症―最新の動向	菊地 勘	166～174	(1) 慢性疾患看護専門看護師の透析分野での役割と実践	
(7) 多剤耐性菌および <i>Clostridioides difficile</i> (CD)	朝野 和典	175～180	西川 沙織・中村 雅美	269～273
(8) 結 核	高森 幹雄	181～190	(2) 透析看護認定看護師の役割と実践	
(9) 疥 癬	石井 則久	191～194	木村 剛	275～280
[コラム]			(3) 慢性腎臓病療養指導看護師の役割と実践	
・国際標準の標準予防策―透析室での手指衛生と環境整備	渋谷 祐子	195～196	高橋 妙子	281～286
・手指衛生のモニター, 実施率の測定, フィードバック	小松 康宏	197～198	(4) 腎臓病療養指導士を取得した看護師の役割と実践	
			松木 理浩	287～292
■ 3月号 (vol.37 no.3)	透析看護分野の看護師の認定・研修制度と社会から求められるもの			
腎領域における認定・研修制度	三村 洋美	216	■ 4月号 (vol.37 no.4)	透析の開始・継続・見合わせ
1. 看護職に対するスペシャリスト教育の方向性	齊藤しのぶ	219～223	透析見合わせの対応ポイント	
2. 看護師の継続教育と資格認定制度	荒木 暁子	225～230	伊丹 儀友	312
3. さまざまな研修制度の概説と期待される役割	大坪みはる	231～236	1. 「透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」の意義	
4. 認定・研修制度の目指すもの			岡田 一義	315～318
(1) 腎臓病領域を専門とした専門看護師の社会的ニーズとその活動	岡 美智代・麓 真一	237～242	2. 「透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」の意義―倫理的視点からの検討	
(2) 腎不全看護認定看護師教育の概要と新たな役割	高橋さつき・松本 光寛	243～248	会田 薫子	319～324
(3) 学会認定看護師教育の現状と展望	多久和善子	243～248	3. 透析導入前の意思決定のあり方―インフォームド・コンセント, 共同意思決定 (SDM), 患者参加型医療の視点から	
			小松 康宏	325～331
			4. 透析前の共同意思決定 (SDM) のあり方	
			内田 明子	333～338
			5. 透析前に透析を拒否する患者にどう対応するか?	
			濱田千江子	339～344
			6. 透析継続中止における共同意思決定 (SDM) のあり方	
			石田 真理	345～349
			7. 認知症, うつ病を背景として透析継続中止を求める患者にどう対応するか	
			西村 勝治	351～356
			8. 事前指示書をどう進めるか―当院における事前指示書への取り組みを踏まえて	
			植木 秀一・丸山 祐子	

9. 保存的腎臓療法をどう進めるか	船越 哲	357~363	10. Patient-reported outcome を基にした血液浄化器の選択	下門 清志	481~484
10. 透析困難症例における透析見合わせ	酒井 謙	365~370		政金 生人	485~490
	丸田麻莉絵・丸山 祐子		[コラム]		
11. グリーフケアはどうあるべきか	船越 哲	371~376	・高齢者に適したダイアライザとは	長尾 尋智・神崎 将克	491~493
	三浦 靖彦	377~383	・小児における血液透析関連機器の選択	石塚喜世伸・三浦健一郎	494~496
[コラム]				服部 元史	
・DNAR について	花房 規男	385~386			

■ 5 月号 (vol.37 no.5) ダイアライザ・ダイアフィルタの今後を考える

血液浄化器の機能分類

1. ダイアライザ・ダイアフィルタの歴史と今後の展望	山下 芳久	412
2. 海外とわが国のダイアライザ・ダイアフィルタの比較	峰島三千男	415~424
3. Pro-Con debate: ダイアライザ・ダイアフィルタでアルブミン漏出は必要か	山下 明泰	425~430
(1) Moderator's view: 血液透析におけるアルブミンのもつ意義	花房 規男	431~434
(2) Pro: 血液透析・血液透析濾過ではアルブミン漏出は必要である	櫻井 健治	435~439
(3) Con: 血液透析・血液透析濾過ではアルブミン漏出をできるかぎり少なくするべきである	阿部 雅紀	441~448
4. 21 世紀における生体適合性とは	小久保謙一	449~454
5. 血液浄化膜における吸着の意義	友 雅司	455~459
6. 小分子蛋白の効率よい除去ーアルブミンと α_1 -MG の除去特性	長沼 俊秀・武本 佳昭	461~466
7. 治療法 (HD, HDF) からみた血液浄化器の使い分け	島 久登・道脇 宏行	467~471
8. 治療のスケジュール (長時間透析, 頻回透析) からみた血液浄化器の使い分け	前田 兼徳・前田 由紀	473~479
9. 有用な水溶性小分子をいかに保持するか		

■ 6 月号 (vol.37 no.6) 看過してはならない不整脈

用語解説ーCHADS₂ スコアと CHA₂DS₂-VASc スコア

1. 透析患者の不整脈診療はなぜ大事なのですか?	鈴木 正司	516
2. わが国の透析患者でも突然死は多いのですか?	長谷 弘記	519~524
3. 心臓突然死の原因はすべて致死性心室性不整脈なのですか?	冷牟田浩人・中野 敏昭	525~530
4. 心電図の QT 時間が長いとどうして問題なのですか?	吉田 衣江・高橋 延行	533~536
5. どういう工夫をしたら致死性不整脈や心臓突然死を減らせませんか?	藤崎毅一郎	537~542
6. 透析患者に対する植込み型除細動器 (ICD) の適応は何でしょうか?	石井 秀樹	543~548
7. 透析患者に心房細動は多いのですか?	野呂 真人	549~556
8. 心房細動に対しては, 抗凝固薬を使ってはいけないのですか?	赤尾 昌治	557~562
9. 心房細動に対しては, レートコントロールとリズムコントロールのどちらを優先すればいいのですか?	鶴屋 和彦	563~571
10. どういう工夫をしたら心房細動を減らせますか?	篠原 正哉・池田 隆徳	573~579
[コラム]	河野 圭志・藤井 秀毅	587~593
・突然死と心臓突然死は何が違うのですか?		
・アブレーションってどんな人が適応ですか?ーHD-AF 患者の適応に	田中 友里	531~532

関して

- 山根 禎一 581~583
・経皮的左心耳閉鎖術って何ですか？
透析患者にも適応になりますか？

- 原 英彦 584~586
・透析液 K 濃度と不整脈とは関連が
ありますか？

坂口 悠介 595~598

■ 7月号 (vol.37 no.7) CKD 診療におけるビタミン と微量元素

成人におけるビタミンと微量元素の推定
平均必要量と推奨量

- 加藤 明彦 620
1. CKD 診療におけるビタミン・微量元
素の現況

- 加藤 明彦 623~631
2. 各ビタミン・微量元素の現況

- (1) 水溶性ビタミン類
長井 美穂・菅野 義彦 633~640

- (2) ビタミン D
溝渕 正英・小岩 文彦 641~647

- (3) ビタミン K
花房 規男 649~654

- (4) 鉄代謝
倉賀野隆裕 655~660

- (5) 亜鉛および銅代謝
中村 奈央・深水 圭 661~666

- (6) セレン欠乏症
脇野 修 667~675

- (7) モリブデン, マンガン, ヨウ素,
クロム
宮本 哲 676~680

- (8) 認知症と微量元素
渡邊 一樹・宮嶋 裕明 681~686

- (9) リン吸着薬としてのランタン
高塚 泰輔・大矢 昌樹
重松 隆 687~692

- (10) 高カリウム血症改善薬としての
ジルコニウム
山田 将平・市川 大介 693~697

- [コラム]
・粉末透析剤と微量元素 (珪素: Si)
山下 芳久 698~699

- ・CKD 診療とアルミニウム代謝
山谷 金光・鈴木 唯司 700

- 8月号 (vol.37 no.8) 透析医療における災害対策

- ハザードマップの活用
原田 孝司 724

1. 透析室災害対策の新たな方向性につ

- 4・総目次

いて

- 赤塚東司雄 727~736
2. 大規模地震・津波
宮崎真理子 737~742

3. 北海道胆振東部地震における大規模
停電の経験
真下 泰・高根 麻央
齊藤 徳 743~752

4. 豪 雪
甲田 亮・土田 雅史
宮崎 慧・吉澤 優太
飯野 則昭・成田 一衛 753~757

5. 大型台風・豪雨—2018 年西日本豪雨
における透析被害とその対応
村上 和春 759~763

6. 放射線災害
(1) 福島第一原子力発電所事故の教訓
を活かす
井山 慶大・長谷川有史 765~771

- (2) 透析患者への影響
川口 洋 772~776

7. 都市型災害
花房 規男 777~782

8. 南海トラフ地震が抱える現状とその
課題
是枝 大輔 783~788

9. 火山災害
山川 智之 789~794

10. 日本透析医会災害時情報ネットワー
ク
安藤 亮一・山川 智之 795~800

11. 日本災害時透析医療協働支援チーム
(JHAT)
森上 辰哉 801~806

12. 災害派遣医療チーム (DMAT)
小井土雄一 807~814

13. 長期避難生活における合併症予防
榛沢 和彦 815~824

- [コラム]
・災害時における PD 治療の有用性
中山 昌明 825~826

- ・災害時の食支援
市川 和子 827~830

- 8月増刊号 (vol.37 no.9) 透析患者の消化管疾患
A to Z

- 序 文
花房 規男 847~848

- 総 論
(1) 食欲低下
磯部 伸介 856~860

- (2) 悪心・嘔吐

(3) 下痢・便秘	西野 隆義	861～868	(2) 歯周病	稲垣 幸司	967～974
(4) 急性腹症	富田 寿彦・三輪 洋人	869～876	(3) 顎骨壊死	岩本 潤	975～976
(5) 消化管出血	新宅 究典・佐藤 友保 川西 秀樹	877～880	(4) 口腔内悪性腫瘍	田中 彰	977～980
(6) CT・MRI・超音波検査	福原佳代子・緒方 晴彦	881～886	4. 食道		
(7) 上部消化管内視鏡検査と治療	和田 慎司・水沼 仁孝	887～894	(1) 食道癌	小田島慎也	981～986
(8) 下部消化管内視鏡検査と治療	細江 直樹・林 由紀恵 リンピアス神谷研次・高林 馨 緒方 晴彦・金井 隆典	895～899	(2) 胃食道逆流症	本郷 道夫	987～989
(9) 小腸内視鏡検査と治療	水上 博喜・田中 淳一	900～904	(3) 透析症例における食道・胃静脈瘤	矢崎 康幸・河野 優子 佐藤 雄太	990～993
(10) 消化管手術周術期管理	宮原 晶子・矢野 智則 山本 博徳	905～911	5. 胃・十二指腸		
(11) 栄養療法	加藤 明彦	918～923	(1) 胃癌	飛田恵美子・古川 和宏 角嶋 直美・古根 聡 中村 正直・藤城 光弘	994～997
(12) 開腹手術, 低侵襲手術	高山 哲郎・阿佐美健吾 熊田 博之・芳賀 泉	924～929	(2) 消化性潰瘍・出血	鎌田 智有	998～1002
(13) アルゴンプラズマ凝固	小林 卓真・矢野 智則	930～932	(3) 胃前庭部毛細血管拡張症 (GAVE)	土生 亜実・恩田 毅 貝瀬 満	1003～1005
各 論			(4) 機能性ディスペプシア	大島 忠之・三輪 洋人	1006～1009
1. 全消化管にみられる疾患・徴候			(5) <i>Helicobacter pylori</i> 感染症	原武 大介・小林 知貴 長澤 佳郎・西澤 欣子 山下 和臣・伊藤 公訓	1010～1012
(1) 消化管穿孔	堀 誠司・室谷 典義	934～936	(6) 消化管間質腫瘍 (GIST)	杉山 敏郎	1013～1016
(2) 消化管運動機能異常・吸収不良症候群	眞部 紀明・綾木 麻紀 中村 純・藤田 穰 畠 二郎・春間 賢	937～940	6. 小腸・大腸, 肛門		
(3) 消化管の感染症	清水 誠治	941～944	(1) イレウス	安達 洋祐	1017～1020
(4) 異物誤飲	石川 秀樹	945～948	(2) 非閉塞性腸間膜虚血 (NOMI)・ 虚血性腸炎	鈴木 修司・下田 貢 島崎 二郎・大城 幸雄	1021～1024
2. 全身疾患に伴う疾患			(3) 炎症性腸疾患	清原 裕貴・金井 隆典	1025～1028
(1) 消化管アミロイドーシス	池田 修一	949～954	(4) 過敏性腸症候群	三澤 昇・高津 智弘 吉原 努・芦荻 圭一 大久保秀則・日暮 琢磨 中島 淳	1029～1032
(2) 血管炎	鳥巢 剛弘・川崎 啓祐	955～958	(5) 短腸症候群	小山 諭	1033～1036
(3) 消化管リンパ腫	岡田 裕之	959～962	(6) 虫垂炎	吉田 篤史	1037～1040
3. 口 腔			(7) 大腸癌	服部 優宏・木井 修平 谷山 宣之・佐藤 正法	
(1) 口腔機能低下症・味覚障害	柏崎 晴彦	963～966			

	後藤 順一・高橋 宏明	1041～1047
(8) 大腸憩室症・憩室炎	藤森 俊二・濱窪 亮平 大森 順・貝瀬 満 岩切 勝彦	1048～1051
(9) 直腸・肛門疾患	福島 慶久・松田 圭二 端山 軍・野澤慶次郎 橋口陽二郎	1052～1056
7. 腹腔・腹壁		
(1) 細菌性腹膜炎	安永 親生・吉松 正憲 宮崎 雄幸・吉屋 圭史	1057～1063
(2) 腹膜播種・癌性腹膜炎	小峯 弓子・吉田俊太郎 藤城 光弘・小池 和彦	1064～1066
(3) 被嚢性腹膜硬化症 (EPS)	花房 規男・塚田三佐緒 土谷 健	1067～1069
(4) ヘルニア	番匠谷将孝・川西 秀樹	1070～1073

■ 9月号 (vol.37 no.10) CKD・透析患者の最近の 知見による体液管理

本特集の読み方ガイド

	中山 昌明	1084
1. 体液調節機構とその異常	小松 康宏	1087～1092
2. 生体の Na・水調節機構の新知見	北田 研人・西山 成	1093～1100
3. CKD・透析患者における体液過剰の 病態	中山 昌明	1101～1107
4. 体液過剰の疫学 (国内外)・患者予後		
(1) 慢性腎臓病	磯崎 雄大・和田 健彦 深川 雅史	1109～1114
(2) 血液透析患者における体液過剰と 血圧について—疫学を中心として	梶谷 英人・西脇 宏樹	1115～1121
(3) 腹膜透析・併用療法	嵯峨崎 誠・丸山 之雄	1122～1126
5. 体液状態の評価・測定法		
(1) 生体電気インピーダンス法	大橋 靖・吉田 規人 高橋 禎・日高 舞 石井 信伍・山崎 恵介	1127～1134
(2) 血液サロゲートマーカー・エコー 検査	常喜 信彦	1135～1140
(3) 尿酸法による体液状態の評価	新里 高弘	1141～1147

(4) 塩分摂取量の評価方法	永田総一郎・加藤 明彦	1148～1153
(5) ^{23}Na -MRI による組織 Na 濃度評価 法	森 建文	1154～1158
6. 治療と対策 (CKD と透析)		
(1) 減塩指導	柳 麻衣	1159～1164
(2) 口渇感	玉垣 圭一・井田 智治 八木 彩・三原 悠	1165～1171
(3) 利尿薬	金 恒秀・水野 正司	1172～1176
(4) 透析方法と透析液 Na 濃度—血液 透析	鈴木 一裕	1177～1182
(5) 透析方法と透析液 Na 濃度—腹膜 透析	丹野 有道	1183～1189
[コラム]		
・新しいバイオインピーダンス法	渡邊 公雄	1190～1191

■ 10月号 (vol.37 no.11) シームレスな CKD 対策に 向けての看護実践

CKD ステージ別患者の看護目標概要	中原 宣子	1204
企画に当たって	中原 宣子	1207
1. CKD 進展予防から RRT 導入まで		
(1) 看護実践の考え方	中村 雅美	1209～1214
(2) 看護の役割	内田 明子	1215～1220
(3) 看護体制づくり	松木 理浩	1221～1226
2. CKD 進展予防から RRT 導入までの 患者支援		
(1) 非高齢者への看護実践—成人期 にある CKD 患者に対するシーム レスなチームアプローチによる支 援	能美亜紀子	1227～1232
(2) 高齢者への看護実践	黒田 沙織	1233～1237
(3) 超高齢者への看護実践	不動寺美紀	1238～1243
(4) 患者家族への看護実践	中村 理恵・山内 美希	1244～1248
(5) 糖尿病患者への看護実践	今井 早良・中田 由紀 長谷川友紀	1249～1254

(6) CKD 対策における自己効力理論を用いた看護介入	鈴木 幹子	1255～1260
3. CKD 進展予防に向けての保健師の活動	加澤 佳奈・要田 弥生	1261～1266
4. CKD 進展予防から RRT 導入までの看護実践	(1) 外来教育 徳元しのぶ	1267～1272
	(2) 教育入院 片村 幸代・櫻井 律子	1273～1280
5. CKD 進展予防に向けての訪問看護活動ー在宅療養高齢者への確実な投薬を支援する取組み	住友 明美	1281～1284
6. 市民公開講座の開催における看護師の役割ーCKD の啓発活動とその効果	鈴木 智恵	1285～1289
[コラム]		
・CKD 進展予防の効果的な介入ー文献レビューから見えること	小坂 志保	1290～1292

■ 11 月号 (vol.37 no.12) CKD・透析患者の栄養指導方法と実践

1. 腎疾患患者の栄養指導とは？		
(1) 栄養指導や栄養管理を行う際の診療報酬上の栄養指導の分類	齋藤かしこ	1319～1323
(2) 保存期・透析期 CKD 患者における食事・栄養療法の問題点	加藤 明彦	1324～1333
(3) 栄養アセスメント法	瀬戸 由美・鈴木 慎二	1334～1340
2. 栄養指導		
(1) 腎臓病療養指導士による栄養指導への期待	要 伸也	1341～1344
(2) 腎臓病病態栄養専門管理栄養士の展望	市川 和子	1347～1352
(3) CKD・透析患者に対するガイドラインでの栄養推奨事項	和田 貴彦・菅野 義彦	1353～1358
3. 栄養指導実践ー保存期 CKD の栄養指導		
(1) 個人指導と集団指導	川畑 奈緒	1361～1368
(2) 腎代替療法導入時の栄養指導	北林 紘	1369～1374
4. 栄養指導実践ー透析療法慢性期の栄		

養指導

(1) 個人栄養指導 (テラーメイド)	納富 智子・北村 峰昭	
	原田 孝司・舩越 哲	1375～1380
(2) 集団栄養指導 (食事会含む)	黒住 順子	1381～1387
5. 栄養指導実践ー腎移植患者の栄養指導	森岡 優子・吉田 朋子	1389～1394
6. 栄養連携		
(1) IT 等を用いた栄養指導	岩田康太郎・朝倉 洋平	
	白澤 祐一	1395～1401
(2) 栄養情報提供書作成	橋本 誠子	1405～1411
おもな栄養補助食品の栄養成分表	市川 和子・藤林 真由	1412～1413
[コラム]		
・食事の摂取量調査 (評価)ー日本食品成分表 2020 年版 (八訂) も含めて	川手 由香	1345～1346
・便秘解消のための食事	小松 康宏	1359～1360
・在宅血液透析に食事指導は必要なのか？	政金 生人	1402～1403

■ 12 月号 (vol.37 no.13) 透析医療システムの将来と医師の働き方改革

本特集の意図ー透析医療, 変革の時期	中山 昌明	1436
1. 働き方改革		
(1) 医師の働き方改革とは何か	遠藤 久夫	1439～1445
(2) 医師の働き方改革ー聖路加国際病院の経験から	藤川 葵・山内 英子	1446～1456
(3) 働き方改革を踏まえた将来の透析医療ー地域包括ケアシステムの利用と AI, IoT, ロボット工学の可能性	中元 秀友・青柳龍太郎	
	鈴木 康大・熊川 友子	
	松井 拓也・小林 威仁	
	廣岡 伸隆	1457～1469
2. 男女共同参画の取り組み		
(1) 女性医師の課題と解決	森 典子	1471～1475
(2) 女性医師と透析医療	森石みさき	1476～1482
3. タスクシフト		

(1) 医師の診療体制	本田 浩一	1483～1486	5. 透析医療の効率化デザイン	浅沼 克彦	1507～1511
(2) 看護師の診療範囲	佐藤 久光	1487～1491	(1) 日本透析医学会統計調査と医療の効率化	土谷 健・川口 祐輝	1513～1519
(3) 臨床工学技士の役割	山下 芳久	1492～1496	(2) 診療報酬ビッグデータと医療の効率化	山本 博之	1520～1525
4. 透析業務の管理（安全担保）			(3) 医療の質改善と業務効率化	小松 康宏	1526～1531
(1) 透析室管理の課題と解決	井手 真澄・船越 哲	1497～1501	[コラム]		
(2) AI による透析室管理の具体	大原 利章	1502～1506	・米国における働き方改革	山内 英子	1532～1533
(3) AI を用いた透析患者管理の可能性	井上 宏子・相澤 昌史				

●OPINION

1月号 (vol.37 no.1)	腎臓内科医の役割	高野 秀樹	621～622
コロナ禍のなかの医療者	中山 昌明	5～6	
2月号 (vol.37 no.2)	統合電子カルテの実現に向けて	森 典子	725～726
国勢調査と大規模データベース	丸山 之雄	109～110	
3月号 (vol.37 no.3)	歴史は繰り返すか	藤乗 嗣泰	1085～1086
高齢化時代に想うー老い楽に生きる	日ノ下文彦	217～218	
4月号 (vol.37 no.4)	鏡の中でアリスは歌う	風間順一郎	1205～1206
Web 配信と学会カルチャー	長田 道夫	313～314	
5月号 (vol.37 no.5)	オンラインで伝わるもの、伝わらないもの	本田 一穂	1317～1318
塩はカラダに蓄積してきます	西山 成	413～414	
6月号 (vol.37 no.6)	記憶力が低下する歳になって考える医師の価値ー“なぜかと考える”ことの重要性	宮崎 正信	1437～1438
透析導入原疾患について思うこと	長谷川 元	517～518	
7月号 (vol.37 no.7)	“当たり前”の医療ー病院の役割と、		

●症例による透析患者の画像診断

1月号 (vol.37 no.1)	症において外科的治療で腹膜透析を継続しえた1例	江川 雅博・伊藤 孝史	301～305
アルコール性肝硬変と末期腎不全をもち、骨折を繰り返した後に骨形態計測を行い、治療法を変更した症例			
田口 周平・渡邊 駿			
水野 裕基・乳原 善文	97～102		
2月号 (vol.37 no.2)	上腸間膜静脈気腫症を生じ、保存的に改善を認めた腹膜透析患者の1例	林 綾香・藤丸 拓也	
山田 将平・関 来未		濱田 隆行・嶋田 啓基	
小坂橋賢一郎・櫻田 勉		渡邊 公雄・伊藤 雄伍	
柴垣 有吾	205～209	長浜 正彦・瀧 史香	
3月号 (vol.37 no.3)	腹膜透析導入時に発症した横隔膜交通	中山 昌明	394～398
	5月号 (vol.37 no.5)		
	心内血栓による上腕動脈血栓塞栓症で		

シャント閉塞を認めた1例	大野 和寿・菅生 太朗 村上 琢也・阿久津博彦 佐藤 弘隆・秋元 哲 齋藤 修・長田 太助	505～509	林 綾香・嶋田 啓基 渡邊 公雄・藤丸 拓也 長浜 正彦・瀧 史香 中山 昌明	837～841
6月号 (vol.37 no.6)	結核性胸膜炎を併発した透析患者の1例		11月号 (vol.37 no.12)	
	江川 雅博・伊藤 孝史	605～610	CT検査が診断に有用であったものの、末期腎不全に至った活動性尿路結核の1例	
8月号 (vol.37 no.8)	フルニエ壊疽を発症した血液透析患者の1例		大野 和寿・平田 真美 神永 洋彰・吉澤 寛道 今井 利美・秋元 哲 齋藤 修・長田 太助	1415～1419
	浜田 隆行・伊藤 雄伍			

●ケース・スタディ

1月号 (vol.37 no.1)	下腿浮腫と体重増加を呈し精査入院となった生体腎移植後患者の1例		5月号 (vol.37 no.5)	溶血性貧血で発症し、急性腎障害を合併した1例	
	鈴木 泰平・森川 友喜 佐藤 望・神林 由衣 吉武 理・本田 浩一	89～95		越野 昌子・野畑 宏信 伊藤 恭彦	497～504
2月号 (vol.37 no.2)	高血圧緊急症に伴う急性腎不全に対して透析を行い、離脱し得た1例		6月号 (vol.37 no.6)	骨肉腫に対する術前化学療法後に発症した急性腎障害の1例	
	坂本 絵美・知念美里亜 野口はるか・鈴木美香子 近藤 勲・新倉 崇仁 鈴木みなみ・新井 洋平 片桐 大輔・日ノ下文彦	199～204		國正 靖・眞鍋 雅人 志賀 崇史・大西 啓右 尾崎 太郎・祖父江 理 若林 誉幸・日下 隆 南野 哲男	599～604
3月号 (vol.37 no.3)	嘔吐・下痢と意識障害を呈した急性腎障害の1例		7月号 (vol.37 no.7)	突然の背部痛と下肢麻痺を認めた維持血液透析患者の1例	
	吉川 和寛・菊池 調 松浦 佑樹・野田 晴也 佐藤 直幸・田中 文隆 旭 浩一	293～300		千葉 祐貴・藤倉 恵美 福士 泰夫・小野田祥人 久志本成樹・宮崎真理子	701～708
4月号 (vol.37 no.4)	急性腹症をきたした腹膜透析患者の1例		10月号 (vol.37 no.11)	透析で除水に難渋した重症心不全の1例	
	櫻井 義大・古谷麻衣子 倉重 眞大・丹野 有道	387～393		戴下紗耶香・阿佐美匡彦 塚田 弘之・古瀬 智 田中 旬・青木 二郎 田邊 健吾・三瀬 直文	1293～1298

●話題・論点

7月号 (vol.37 no.7)	新型コロナウイルス感染症 サイトカイン制御の試み（薬物療法）	713～717	10月号 (vol.37 no.11)	新型コロナウイルス感染症 一病院クラスターと透析室の対応	
	片桐 大輔			笠井 健司・後藤 博一 柏木 秀幸	1299～1304
8月号 (vol.37 no.8)	新型コロナウイルス感染症 サイトカイン制御の試み（血液浄化療法）	831～836	11月号 (vol.37 no.12)	新型コロナウイルス感染症 一院内感染防御を目指した院内体制	
	片桐 大輔				

●研究・報告

4月号 (vol.37 no.4)

〔臨床工学〕12年間RO水の高度清浄化
を維持できたRO膜の性状分析
—新しいRO膜性状分析法を用いて

佐々木敏作・辻 大輔
守屋 棕伍・松井 克将
丸山 禎之・和田 茂 399～405

●CKD患者に推奨されるワクチン接種

6月号 (vol.37 no.6)

末期腎不全・透析患者に対するワクチン接種

矢野 邦夫 611～614

安藤 亮一 1193～1196

10月号 (vol.37 no.11)

おたふくかぜ・三種混合ワクチン

藤倉 知行 1305～1308

7月号 (vol.37 no.7)

腎移植患者に対するワクチン接種

磯部 伸介 709～712

11月号 (vol.37 no.12)

麻疹・風疹ウイルス

石垣さやか 1425～1429

9月号 (vol.37 no.10)

インフルエンザワクチン

本誌の本年1年間の編集委員、編集協力者は以下のとおりです。また、本誌の刊行にあたりご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。
〔(株)日本メディカルセンター〕

■編集委員

鈴木 正司	原田 孝司	秋葉 隆	伊丹 儀友	小松 康宏	西 慎一
中山 昌明	加藤 明彦	花房 規男	下山 節子	水附 裕子	佐藤 久光
中原 宣子	三村 洋美	市川 和子	齋藤かしこ	峰島三千男	山下 芳久

■編集顧問

川口 良人 浅野 泰 宇田 有希 (敬称略)

■創刊以来ご尽力いただいた歴代編集委員

前田 貞亮 (故人)	黒川 清	佐藤喜一郎	中川成之輔 (故人)
酒井 糾 (故人)	大平 整爾 (故人)	平澤 由平* (故人)	
春木 繁一* (故人)	落合 福江	吉岡 典	足立 悦子 白井 昭子
安西志保子	川崎 忠行	赤間 立枝	(敬称略, *: 特別編集委員)